

読み聞かせグループ「いっぽいっぽいっぽ」にきく



寿小学校 PTA 役員
岡富 好美さん

16歳と11歳の2児の母。平成17年から「いっぽいっぽ」の活動を始める。また、現在PTA役員の書記で、読書活動推進部の世話係として活動。

読書推進部との協力作業で、更に充実した朝読書に取り組むことができるようになってきました。まさしく「いっぽいっぽ」と前進しているグループです。

子どもたちの変化

読み聞かせグループが誕生して今年の8月でちょうど7年目を迎えますが、確実に子どもたちに変化が出てきています。最初の頃は、おしゃべりが多く、本に目を向けさせることに力を入れましたが、今では、どの学年も静かに読み手の話に聞き入ってくれます。また、昼休みのお話し会では、全学年から100人を超える子どもたちが多目的教室に集まりますが、マイクを使わずに読むことができるほどの成長ぶりです。

親子が一番

読書の大切さは、いろいろな場面で情報が出されているので、皆さんご存じかと思いますが、しかし、実際にはなかなか難しいというご家庭は、まずは親子で本に触れてみてください。

私たちは、子どもの前で読むことから、本選び、練習等で我が子の前で読む機会が増えていきます。必然的に近くに本があると、本と共有する時

間も増えるのです。

一番は、子どもが通う学校の読み聞かせボランティアなどで活動していただけることをオススメしたいのですが(笑)。

どうぞこの夏は、お父さま、お母さまが本を手に取り、子どもに読んであげる機会を増やしてください。その回数分だけ子どもは本好きになると思います。

8月1日、リナシティかのやで、「読み聞かせ研修」を行っている、寿小学校の読書活動推進部の皆さんの様子

グループの誕生

読み聞かせグループは、平成16年8月の家庭教育学級の緑陰読書会から始まり、翌9月からは、保護者5人のボランティアメンバーで、学期一回昼休みに読み聞かせを行ってきました。平成17年度には、

10人に増えたメンバーで、グループ名を「いっぽいっぽ」とし、当時、新しくできた朝の読書タイムに参加して、学級への出張読み聞かせを行うようになりました。現在では、転出入や進級でメンバーはほとんど入れかわりましたが、平成21年度から

会が終わると「絵を詳しく見せて」とか「次も楽しみにしています」などの声をかけてくれる子どもたちも増えて

鹿屋市立寿小学校が

「平成23年度子ども読書活動優秀実践校」の

文部科学大臣表彰被表彰者に決定

この表彰は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできない読書活動の一層の推進を図るため、広く子ども読書活動についての関心を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校に対し、文部科学大臣から表彰されるものです。



文部科学大臣表彰を受けて

鹿屋市立寿小学校 加治屋 浩一郎 校長

本校は、平成19年度から市の「鹿屋市立図書館研究提携校」として指定を受け、市立図書館との連携を図りながら、読書を通じた豊かな心と読解力の育成に取り組んでいるところです。

そして、平成21年度からは「進んで本を読み、学んだことを活用できる子どもの育成～読書指導の充実を通して～」をテーマに、市立図書館との連携等を生かした読書環境づくりと読書活動の充実、国語科を中心とする指導方法の工夫改善という二つの視点から、全校体制で研究実践に取り組んでいます。

このテーマは、今年度から本格実施される新学習指導要領に示されている、生きる力としての思考力・判断力・表現力等の育成を図るための根幹となるものと捉えて、研究を推進してまいりました。

この4年間の研究の成果として、家庭、地域、公共図書館と連携を図った読書環境・読書活動の充実、子どもの読書意欲の高まりや保護者・職員が一体となった読書活動の活性化、読解力の向上等の成果が上がっています。

しかしながら、読書好きの子とそうでない子の二極化がなかなか解消されないなどのいくつかの課題も残されています。今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

100人を超える子どもたちが、多目的教室に集まり熱心に耳を傾ける昼休みの読み聞かせの様子

